

東南アジア史学会会報 № 29

昭和 53 年 5 月

御 挨 捶

会長 中村 孝志

このたび和田久徳会長のあとをうけて、東南アジア史学会第7期会長の重責を荷うことになりました。和田前会長は本学会の設立当初から山本達郎先生を助け、事実上学会の推進役として温厚篤実なひとがらで基礎づくりに尽力されました。和田会長の時に、年二回の大会のいずれか一つを、関西で開くことが一応確立されました。今回の私の会長就任は事務局が関西に移ることになったぐらいのことと考えております。

東南アジア史学会は創立 10 周年を迎えるました。かつてジョアン・デ・バロスはアジアの歴史を 10 年 (Decada) に区切って書きましたが、10 年という年月は節から新しい芽が出る躍進の時期とも思います。事務局では従来の業績をふまえて今後の会を如何にあらしめるか、いろいろと企画をねっておりますが、会員諸兄姉もどしどし建設的な御意見、希望などを申し出て下されば会の運営の上にもひじょうなプラスになると思います。東南アジア史学会の層一層の飛躍発展を祈って、切に御協力を御願いいたす次第です。

なお、下記の方々に新委員を御願いいたしましたので、併せて御報告申しあげます。

第7期委員（アイウエオ順，敬称略）

生田 滋（編集），池端 雪浦（中部地区），石井 米雄，石沢 良昭（九州地区），市川 健二郎，伊東 隆夫（中国地区），荻原 弘明（九州地区），加納 啓良，川本 邦衛，白鳥 芳郎，鈴木 恒之，陳 莉和（香港地区），土屋 健治（庶務），藤沢 義美（東北地区），藤原 利一郎（会計監査），森 弘之，山本 達郎，吉川 利治（会計），和田 久徳（編集）

会長選衡経過報告

和田久徳会長の任期満了にともない、昭和 52 年 10 月に会長選挙管理委員会が発足した。委員は内田 晶子，小川博，土肥祐子，久光由美子，森弘之であった。郵送によって会長候補者選出委員の投票が行われ、11月 10 日に開票の結果、生田滋，石井米雄，白鳥芳郎，永積昭，中村孝志，山本達郎，和田久徳の七氏が選出された。

12月 3 日京都大学楽友会館に於て会長候補者選定委員会が開催され、中村孝志氏が第7期会長候補者に選出され、12月 4 日開催の東南アジア史学会総会において会長に選出された。（森弘之）

東南アジア史学会第 18 回秋季研究大会報告

東南アジア史学会第 18 回秋季研究大会は昭和 52 年 12 月 3 日（土）・4 日（日）の両日、京都大学楽友会館に於て下記の通り開催されました。大会は「東南アジア史における〈農業的領域国家〉と〈商業的都市国家〉」をテーマとするシンポジウムとして行われましたが、90 名を越える参加者を得て清新な問題提起並びに研究発表と活発な質疑応答、討論が展開され成功裡に終りました。各発表の要旨と討論の内容については次号会報に掲載する予定ですが、大会のプログラムは以下の

通りです。

テーマ・シンポジウム「東南アジア史における〈農業的領域国家〉と〈商業的都市国家〉」		
第一日	問題提起 「農業国家・都市国家論」	石井 米雄
	「都市国家論1)」シュリヴィジャヤ	富尾 武弘
	「都市国家論2)」マラッカ	生田 滋
	「農業国家論」クメール帝国	石沢 良昭
第二日	「都市国家」による「農業国家」の包摂：アチエの事例	鈴木 恒之
	「農業国家」による「都市国家」の包摂：コンバウン・ビルマ	大野 徹
	「拡張主義」の概念：グエン朝ベトナム	川本 邦衛
	マタラムとオランダ東インド会社	森 弘之
	問題点の要約	桜井 由躬雄
	【記念講演】Bronze Castings in Siang China	
	香港中文大学副学長	鄭 德坤

『東南アジア－歴史と文化－』第7号 1977年12月 内容

〔論 文〕

大越史記全書の撰修と伝本	陳 荆和	3
渦文化の一徵表としての『跳白船』一『鳴榔』との関連に於て	西村朝日太郎	37
ラオスの伝統的統治体系	吉川 利治	63
〔研究ノート〕		
清仏戦争の際の李鴻章一原敬在天津領事の観察を通じて見たる	河村 一夫	93
19世紀初期ベトナム村落内土地占有状況の分析再論 —Nguyễn Đức Nghinh 氏の4論文の紹介と批判、及び山南下 鎮における展開	桜井由躬雄	104

〔書評・紹介〕

Jeremias van Vliet, <i>The Short History of the Kings of Siam</i> …木村 宗吉	131
David Jonston, <i>Export Agriculture and Rural Change in Thailand: 1890~1930</i> …北原 淳	133
P. L. Amin Smeeney and Akira Gotō (ed.), <i>An International Seminar on the Shadow Plays of Asia</i> …宮尾 慈良	142
Jean Boisselier, <i>Le Peinture en Thailande</i> …伊東 照司	146
白鳥芳郎編,『搖人文書』…和田 久徳	150

モンスター・学界消息

ビルマとの図書交換について一鹿児島大学教養部の場合	荻原 弘明	153
ボロブドール修復工事のその後	千原大五郎	155
スコタイ史蹟公園プロジェクト	山田 庄彦	156
ラベル洞穴訪問記	青柳 洋治	158
バーン・ティエン彩文土器の顔料	伊東 照司	160
ヴェトナム歴史学院報「歴史研究 Nghiên Cứu Lịch Sử 文獻 目録」1975年1・2月号～1976年11・12月号	高津 茂	162
統一ヴェトナム訪問及びランタナイ古文献保存計画合同委員会 の発足	白鳥 芳郎	171
中国大陆古文化研究会の動向	常見 純一	173
東南アジア史学会関西例会の活動	石井 米雄	175
早大社会科学研究所の東南アジア研究	村井 吉敬	176
I. A. H. A. 第7回集会に出席して	山本 達郎	178
「イラン以東のイスラム」にかんする国際会議	永積 昭	179
フランスのインドシナ近・現代史研究者たち	高橋 保	182

東南アジア関係文献目録(1976年1月～12月)	生田 滋	185
	桜井由躬雄	

東南アジア史学会会則 東南アジア史学会入会の方法 『東南アジア』執筆要領	198～199
---	---------

『東南アジア - 歴史と文化 -』原稿募集

今年秋に刊行予定の『東南アジア - 歴史と文化 -』第8号の掲載原稿を募集致しております。締切は7月31日でございます。原稿の宛先は、〒113 東京都文京区本駒込2丁目28-21，東洋文庫気付 生田 滋 であります。掲載を希望される方は同封のハガキにて御申込み下さい。執筆要領等は既刊号巻末に掲載されております。（生田滋）

東南アジア史学会第19回研究大会

東南アジア史学会第19回研究大会は下記の通り東京に於て開催されます。何卒御参加下さい。
なお同封のハガキに御出席の有無を記入のうえ、5月27日（土）までに御返送下さい。

日 時	昭和53年6月4日（日）
場 所	御茶の水女子大学 一般教育棟2階大教室
9:30	受付開始
10:00	開会
10:10	ビルマ慣習法典について 奥平 竜二（外務省）
10:55	17～18世紀カンボジアの王の即位年代をめぐる諸問題 野副 由美子（御茶の水女子大）
11:40	現代タイ国の出版傾向に見られる文化状況 赤木 攻（大阪外国語大）
12:25	昼食・休憩、委員会
1:45	会員総会
2:15	阮朝前期祭礼の一考察 高津 茂（慶應大）
3:00	ヴェトナムの『民族俗字』『字喃』研究の歴史的意義 富田 健次（大阪外国語大）
3:45	黎朝刑律の刑罰体系 山本 達郎（国際基督教大）
4:30	19世紀中葉のジャワに於ける村政 内藤 能房（名古屋市立大） - ジャワ村落の歴史的性格に関する一考察 -
5:30	懇親会（於：御茶の水女子大学文教育学部棟 第一會議室、会費3,000円）

会 計 報 告

【昭和51年度収支決算報告書】(昭和51年11月24日～昭和52年11月30日)

I 収入の部	II 支出の部
会員会費 259,750	会報、名簿発行費 78,900
受取利息 6,628	大会費 106,479
過年度くり越金 318,712	委員会費 16,200
	通信費 46,360
	事務費 2,900
585,090	250,839
	III 次年度くり越金 334,251
585,090	585,090

会 費 納 入 に つ い て

東南アジア史学会の年会費金2000円を御納入下さい。納入方法は春または秋の学会で直接御支払い頂くか、あるいは、下記の郵便振替を御利用下さい。(吉川利治)

【郵便振替】京都 41772 東南アジア史学会

新 会 員 名 簿 の 発 行 に つ い て

東南アジア史学会は、1967年以来、順調な発展をとげ、本年4月末現在240名の会員をもつ学会へと成長いたしました。この間、内外の東南アジア研究の水準も著しい向上を示し、数々のすぐれた業績が次々と発表されております。当学会といたしましては、この際、会員相互間の研究上の交流をますます盛んにするため、新しい試みとして、会員各位の研究領域と、現在の関心あるテーマにつきアンケート調査を行いましたところ、予想外に多くの方々から御回答をいただくことが出来ましたので、早速これを印刷に付し、皆様のお手許におとどけすることにいたしました。ここに紙面をかりて、回答者各位の御協力に感謝申上げる次第です。なお、これを土台といたしまして、さらによいものをつくりたいと考えておりますので、今後共よろしくお力添えのほど、よろしくお願ひ申上げます。(石井米雄)

* * * *

昭和53年5月発行

発行者 東南アジア史学会(中村孝志)

住 所 〒632 天理市杣ノ内町

天理大学人文研究室

電 話 (07436)3-1511 内線6481

振 替 京 都 41772 東南アジア史学会